

文教協会報

No.686

(令和7年2月)

まなびの泉 心のかよいあい	—一人一台端末による子どもの学び— …… 2 親子体操～からだを使ったコミュニケーション～(北幼保園) …… 3 「誇れ！南中魂 ～感謝 ありがとうの心～」(南中学校) …… 3
わくわく協働活動 ぬくもり	みんな大好き！大垣市武道館 おいでよ！大垣市武道館 …… 4 ～大垣市の教職員研修の充実に向けて～ …… 5
ふるさと・再見 声 こえ VOICE	大垣藩の武術家 正木利充 …… 6 「歴民」と美濃国分寺跡、昼飯大塚古墳へ来て見て、学んで！ …… 7
～文教のまち 大垣～	子どもが主人公の「未来のすてきな大垣」づくり事業 ～大垣市×SDGsお化けサミット開催～ …… 8
ふるさと美術散歩⑨	大垣市守屋多々志美術館を訪ねて …… 8

原画	お化けの特徴	リライト作品
	イートミー (どんなお化け?) 食材を無駄にしてしまう家やお店に住みつくお化け。食べ物をひとつ捨てるごとにひとり増える。このお化けが4,949体集まると、整理整頓ができずに、ゴミ屋敷になってしまう呪いにかかる。	
	ノンバックまる (どんなお化け?) 若い人たちが、他地域で色々なことに挑戦することを応援するお化けと、他地域で力をつけた若者を大垣へ呼び戻す力が弱く、人口減少化を嘆く、ふたつのお化け。	
	コイバー (どんなお化け?) 水門川に捨てられたビニール袋やペットボトル、アルミ缶、プラスチックなどのゴミを食べて巨大化してしまった鯉のお化け。コイバーがいることで水門川の環境や水質、生態系が保たれ、小魚や稚魚は安全に暮らすことができる。	

「大垣市×SDGsお化け」の受賞作品 紹介②



ー 一人一台端末による子どもの学び ー

大垣市教育委員会では、子どもたち一人一人が確かな学力を身に付けていくために、大垣市版GIGAスクール構想に基づき、ICTを活用した授業を推進しています。一人一台端末（タブレット）が導入され、約4年が経過しました。今回は、タブレットを用いてどのような学びができるようになってきているのか紹介します。

一人一台端末(タブレット)を活用した学びの例

○学習支援ソフトを活用した学び

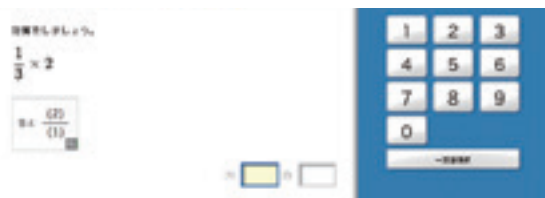
子どもたちが活用しているタブレットには、学習支援ソフトが導入されています。このソフトによって、学級内の仲間の考えを知ることができたり、共同して資料を作成したりすることができます。



学習支援ソフトを活用した学習の様子

○デジタルドリルソフト

小学校1年生～中学校3年生の教科書に対応した問題が搭載されています。学校の宿題として活用したり、子どもたちが自分で問題を選択し、学習したりすることができます。学年外の問題も選択でき、個々に合ったレベルやペースで学びを進めることができます。



デジタルドリルソフトの問題例

○オンライン異文化コミュニケーション

小・義務教育学校5年生及び6年生を対象にして、タブレットを活用して、フィリピン、オーストラリア等の現地の子どもとオンラインで繋ぎ、英語でのコミュニケーションを図っています。タブレットの導入により、学校内で国境を越えた相手との双方向のやりとりが実現できるようになりました。



オンライン異文化コミュニケーションの様子

○教科書等に記載されているQRコードの活用

子どもたちが使用している教科書には、QRコードが随所に位置付けられています。タブレットでQRコードを読み取ったコンテンツを、授業の中で活用したり、家庭学習で学校の授業の学びを振り返ったりすることに活用することができます。

上記の他にも動画コンテンツの視聴、プログラミング教育など、さまざまなことに活用することができます。これからも、子どもがルールを守りながら、有効なツールを選択し、一人一人の教育的ニーズや学習状況に応じた学習ができるように取り組んでいきます。

(学校教育課 鈴木 宏教)



親子体操～からだを使ったコミュニケーション～

北幼保園 PTA会長 片山 博寿

「親と子が協力してからだを動かす」をテーマに、非常に楽しく充実した時間を過ごすことができました。

6月中旬に、外部講師を招いて、親子運動遊びを実施しました。「公園で一緒に遊ぶ」というのはよく経験があるとは思いますが、「親子で協力をする」という発想は今までありませんでした。子どもたちが、大人のからだを使って、立ったり回ったりしていました。楽しそうに活動していました。幼児は、自分の言葉を整理して上手に伝えることは苦手です。だからこそ、からだを使って、コミュニケーションを取りながら、親と子が気持ちを伝え合うことが大切だと感じました。そして、そんな方法を講師の方から教えていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。

我が家でも、子どもたちが、「幼稚園で一緒にした運動しよう」と寄ってきました。子どもたちが主体的に運動を求めてきて、互いにコミュニケーションをとることができました。

今年度の北幼保園家庭教育学級のテーマは、「広げよう！笑顔の輪～思いやりの心を育もう～」です。今の時代、仕事や家事で、忙しい日々を送る中、子どもとの触れ合いの時間は必要だと思います。そして、コミュニケーションの取り方は、分かるようで分かりません。今後も、講師を招きながら、親と子が協力して取り組めるイベントを継続して行えたらと思います。そして、笑顔の輪が広がっていくことを期待しています。



親子運動遊び

『誇れ！南中魂 ～感謝 ありがとうの心～』

南中学校 PTA会長 村田 幸陽

世界的に流行した、新型コロナウイルス感染症が我々の生活を変えました。身近な学校生活では「入学式・卒業式」「運動会」「授業参観」「修学旅行」などがこれまでと同様にできなくなりました。「合唱ができない」ことにより、校歌を知らない生徒がいました。

不便な生活を送る中で、直接顔をあわせ大勢で話し合う雑談の中から生まれてくる発想の価値や、給食を対面で話をしながら食べることのよさ、集団生活をするることによる規律の大切さに気付くことができました。

また、令和6年1月1日に起こった能登半島地震では、被害に遭われた中学生約400人が、約2か月間親元を離れて集団避難をしました。同じ年頃の子をもつ親として非常に心が痛くもありました。

「今そばにいる人は、当たり前にいってくれるわけではない」、今まで当たり前であったことが当たり前でない毎日を「ありがとうの気持ち」をもって生きていけることができたらし、今年度はこのスローガンを掲げてPTA活動を進めてきました。

コロナ禍以降、これまで自粛されてきた行事も「再開する」もの、「再開しない」ものに選別することが必要となってきました。再開するものの中に、そのままではなく、この時代に合わせて変える必要のあるものも出てきました。PTA活動についても、同じだと思います。昨年度はPTA規約の見直し等を行いました。そして、今年度は保護者会の立ち上げや、PTA役員会の再編・活動の縮小等を行っています。

これからも、時代の変化に合わせて、変える必要のあるものを検討することで、子どもたちが過ごしやすく、また会員が無理のない範囲で参加できるように、少しずつ変えていきたいと思っています。



『今、必要なこと…』会員向け情報モラル講座

みんな大好き！大垣市武道館 おいでよ！大垣市武道館

1 はじめに

大垣市武道館は、伝統的な日本建築をイメージしつつ、力強さ・躍動感・飛翔感を表現した美しい施設です。武道競技振興の中核施設として平成10年6月にオープンし、27年目を迎えました。柔道、剣道、弓道等の道場と相撲場に加え、トレーニングセンターを併設し、一般市民も利用できる施設となっています。平成12年度に全国高校総体の剣道競技、平成24年度にぎふ清流国体のフェンシング競技会場となりました。

2 おもな施設

【第2道場 柔道場】



正式試合場 4面 タタミ敷 (535.5畳)
親子で体操教室なども開催しています！

【トレーニングセンター】



200名まで収容可能。自分を追い込む！
各種トレーニング機器 (50種80台) 設置！

その他に、剣道場 (なぎなた場)、弓道場、相撲場もあります。一度競技もご覧ください。

3 多目的ホール 新設

令和6年度からは、多目的ホールが新しくオープンし、定期的にヨガ・骨盤体操・エアロビクス・体幹筋活体操などの多様な教室を開催しており、例えばこのようなコースがあります。

○バレトン

フィットネス、バレエ、ヨガの動きを音楽と楽しむ新感覚エクササイズ。マイペースで行います♪

○ピラティスヨガ

ピラティスで体幹を鍛え、ヨガでボディバランスを整えます。代謝 UP お腹引き締め効果期待大！

○シンプルエアロ

動きやすいシンプルなステップを組み合わせた内容です。楽しく身体を動かし持久力、体力向上していきます！



新しくなった多目的ホール

参加者の声

毎週楽しくやらせていただいています！
仲間もでき、楽しく続けています。
体質改善もでき、体調も良く、持久力もついてきました！ぜひ来てみて！



興味のある方、健康を意識されている方、来年度にむけてチェックしてみてください！

また、個人的なサークルの活動 (エアロビクス、体操など) で利用することも可能ですので、ご相談ください。利用料金等詳細は、大垣市体育連盟のホームページでご確認いただけます。これからも多くの皆様のご来場をお待ちしております。 (社会教育スポーツ課 伊藤 誠) <お問い合わせ>

○大垣市武道館 (米野町2丁目1番地1) (TEL 88-2550) ○休館日：毎週火曜日



ぬくもり

～大垣市の教職員研修の充実に向けて～

1 はじめに

予測困難な時代において、自らが社会の創り手となり、持続可能な社会を維持・発展させることができる児童生徒を育成するためには、教師一人一人が自身の専門性を高めるとともに、環境の変化を前向きに受け止め、子どもの主体的な学びを支援する伴走者としての力を備えもつことが必要です。

教師自らが問いを立てて実践を積み重ね、振り返り、次につなげていく探究的な学びを、教師自らがデザインしていくことが、「令和の日本型学校教育」を推進していく上で重要であると言えます。

以下に、現在本市が行っている研修の一部を紹介します。

2 教育総合研究所の実践

(1)「大垣市教職員研修会」の開催

7月31日に、市内の半数以上の教職関係者を対象とした、オンライン研修を開催しました。昨年度、大垣市と連携協定を締結した「学びの多様化学校 学校法人西濃学園」理事長 北浦茂氏と、学園長 加納博明氏より、「不登校児童生徒を含む全ての児童生徒の社会的自立を促す指導の在り方」について、ご講話いただきました。



各校をつないだオンライン研修

<研修の内容>

- ・講話『不登校児童生徒から全体の指導を考える』
- ・演習『不登校児童生徒の心をどう捉えるか』

<参加者の感想>

- ・不登校児童生徒へ有効な指導は、全体へも有効であることが分かった。子どもや保護者への言葉がけや対応を見直し、将来を見据えた進路指導を適切に行っていきたい。

(2)「WEBQU研修会」の開催

7月24日に、早稲田大学講師 高橋幾氏をお招きし、希望者によるWEBQU研修会を開催しました。WEBQUは、児童生徒一人一人の理解と対応方法、学級集団の状態の把握と今後の学級集団づくりの方針を得ることを目的とした心理検査です。これにより、児童生徒の学級満足度及び、学級の傾向や一人一人の困り感等を発見することができます。今年度は、市内26名の教職員が参加しました。



WEBQU研修会の様子

<研修の内容>

- ・WEBQU調査結果の見方や分析方法
- ・1回目と2回目の結果の変容の分析方法
- ・演習「各学級の分析」と交流

<参加者の感想>

- ・学級課題が客観的に分かり、2学期以降の活動を考える上での、ヒントや手立てを得ることができた。
- ・分析結果を活用すれば、心の悩みを抱えている児童生徒の早期発見や、不登校の未然防止につながることが分かった。今後の生徒との関わり方に生かしていきたい。

3 学校での実践「研修主事による校内研修」

各校に位置付けられた研修主事が、学校課題や職員のニーズを基に校内研修計画を検討し、より効果的な校内研修を企画・運営しています。

<具体例>

- ・特別支援教育やICT、学級経営や教科の指導力を高めるためのミニ研修、若手研修等
- ・訪問研修Ⅱを活用した研修（生徒指導、教科、特活、WEBQU等）

さらに、各校において「学び合い文化の醸成」が図られるよう、今後も同僚性や協働性を大切にした校内研修を立案し、実践していきます。

4 おわりに

今後も、時代や社会の変化に対応しつつ、自分らしさを大切にしながら、一人一人の可能性が最大限に引き出される教育の実現を目指して、教職員研修の充実を図ってまいります。

(大垣市教育総合研究所 浜田 諭美)

大垣藩の武術家 正木利充 としみつ KAGAYAKI SPOT

1 正木利充とは



正木利充肖像(個人蔵)

大垣藩の武術家として有名な人物に正木利充という人物がいます。利充は、元禄2年(1689)正月3日、大垣藩士の正木利品、田付左太夫の娘の子として生まれ、安永5年(1776)に88歳で亡くなるまで、武術を極めた人物です。一刀流剣術、先意流薙刀術をはじめ、多くの武術を習得するだけではなく、万力鎖術を創始し、大垣藩はもとより、全国的にも有名な人物となりました。

2 幼少期のエピソード

利充の出産には11日かかったといい、生まれてから6～7ヶ月すると、下駄をはいて走りまわるなど、生まれながらにして並外れた身体能力を持っていました。また、上方村(現・養老町上方)にいた5歳の頃に6～7尺(約2m)の大蛇を退治したお話や8歳の頃に村に出没する狼を追い払ったお話など幼少期より多くのエピソードが残っています。

3 剣術を学ぶ

7歳の頃、利充は、父利品より源流の居合剣術を学びました。その後も剣術の修練に励み、18歳の頃に大垣藩士古藤田俊矩に弟子入りし、一刀流剣術を習得しました。

古藤田俊矩の曾祖父俊直は、一刀流の祖伊藤景久より剣術を学び、一刀流を大垣藩に伝えた人物です。その後、俊重、俊定、俊矩と続き、幕末まで古藤田家が大垣藩の剣槍術師範役を務めました。

4 薙刀術を学ぶ

23歳の頃、利充は、駿州田中(現・静岡県藤枝市)に行く道中、池鯉鮒(現・愛知県知立市)あたりで、薙刀の達人香取時雄に見込まれました。同宿した御油、浜松、島田で3夜続けて技の伝授を受け、別れ際に2封の秘伝書を渡されました。その後も技の修練につとめ、大垣藩に

先意流薙刀術を伝えました。

先意流薙刀術は、信田重治が創始し、信田重之、香取時雄、正木利充と相伝され、その後は幕末に至るまで代々、正木家が大垣藩の薙刀術師範役を務めました。

5 万力鎖術の創始

66歳の頃、利充は、万力鎖術を創始しました。万力鎖術の創始にあたっては、2つのエピソードが残っています。一つは、秋葉権現に1万回参詣した折、夢の中で秋葉権現より万力鎖術の奥義を授かったというお話です。



秋葉神社(静里町)

この秋葉権現については、「正木利充傳」に「下塩田秋葉権現」とあることから、現在の静里町にある秋葉神社であると思われます。

もう一つのエピソードは、大垣藩主の戸田氏が江戸城大手門の警備を命じられた際に、血を流さずに曲者を捕縛するために万力鎖術を創始したというお話です。

6 万力鎖術の継承

利充が創始した万力鎖術は、掌にすっぽりと収まるサイズの2尺(約60cm)ほどの鎖に2つの分銅をつけた道具を使用します。この道具を使用する万力鎖術は、敵を殺傷するのではなく、自らの身を守る護身術の要素もあるため、大垣藩にとどまらず、諸藩の大名や武士、庶民にまで全国に広まりました。



万力鎖
(個人蔵)

利充が亡くなった後も、利充が創始した万力鎖術は、引き継がれており、現在でもいくつかの団体によって継承されています。

【参考文献】

・「正木利充傳」『大垣青年會誌』第11・12・14輯、大垣青年會、1896・1897・1898
(大垣市立図書館 歴史研究グループ 織田 光一)

「歴民」と美濃国分寺跡、昼飯大塚古墳へ来て見て、学んで！

大垣市歴史民俗資料館館長 長井 克義

市内北西部（大垣市青野町）にある美濃国分寺跡歴史公園の北に建つ歴史民俗資料館は、昭和57年10月に開館し、42年が経ちます。史跡美濃国分寺跡の発掘調査によって判明した寺跡の全貌と発掘された貴重な出土品を公開するとともに昼飯大塚古墳等の考古資料や民俗資料を展示し紹介しています。



大垣市歴史民俗資料館

1 2つの展示室

(1) 考古資料展示室

まず目を引くものは、「美濃国分寺伽藍」の復元模型です。七重塔、金堂、講堂、南門、回廊等の位置関係がよく分かります。美濃国分寺跡から出土した白鳳・天平・平安期軒瓦、鬼瓦、刻印土器等も展示してあります。



美濃国分寺伽藍

また、大垣の弥生・古墳時代について、出土品及びパネル等で紹介しています。昼飯大塚古墳から出土した円筒埴輪、東町田墳墓群から出土した絵画土器等の展示物を間近で見たいです。

(2) 民俗資料展示室

西濃地方の農耕文化を中心とした生産用具や日常生活に関係が深い資料等を展示しています。昔の米作りで使われていた「千歯」や「唐箕」、除草の道具、生活で使われていたわら製品、竹製品等は昭和を知る方には懐かしいと感じられるものがたくさんあります。



民俗資料展示室の様子

当館を昔の道具体験で訪れる小学校3年生には、展示物の説明をするとともに、洗たく板による洗たく・炭火アイロンがけ・七輪での餅焼

き、天秤棒体験等を提供しています。

2 歴民の事業

(1) 親子体験教室

小中学生を対象に「昔の道具を使ってみよう」や「勾玉づくり」、「火鉢であたたまろう」、「ひょうたんランプづくり」の4つの体験教室を実施しています。「勾玉づくり」では、滑石を削って勾玉の形にし、表面を磨き、最後は好きな色に着色します。2時間余りの作業となりますが、子どもたちは最後まで集中して取り組み、作品を完成させます。

(2) 講演会・講座

国分寺関係、古墳関係、民俗学関係を中心に講師の先生から話を聞く講演会等も年に3回程度実施しています。広報おおがきで案内しますので、ぜひ、お申込みください。

3 ARアプリの紹介

小中学生がもつタブレットには、美濃国分寺ARと昼飯大塚古墳ARのアプリがインストールされています。現地でアプリを操作すると、美濃国分寺跡歴史公園内では、七重塔が塔跡に浮かび上がったり、発掘体験をしたりできます。昼飯大塚古墳では築造当時の古墳や埋葬施設の様子を見ることができます。両アプリとも一般の方もダウンロードできますので、現地で見たいいただき、かつての姿を感じてください。



美濃国分寺AR



昼飯大塚古墳AR

歴史民俗資料館と美濃国分寺跡や昼飯大塚古墳をセットで訪れていただくと、学びも深まることと思います。みなさんの来館をお待ちしています。



～ 文教のまち 大垣 ～

子どもが主人公の「未来のすてきな大垣」づくり事業 —大垣市×SDGsお化けサミット開催—

設立60周年を記念して、子どもが主人公の「未来のすてきな大垣」づくり事業を行っています。その一環として、「大垣市×SDGsお化け事業」を実施しています。11月16日（土）には、「大垣市×SDGsお化けサミット」を開催しました。

市内小・中学生の代表24人が、今年5月に優秀作品に選ばれた6体のSDGsお化けを通じて、大垣の課題や目指す方向性を話し合いました。

参加した子どもたちは、グループに分かれて、テーマに選んだお化けを共存・退治するための方法について意見を出し合いました。

サミットの最後には石田市長から総評いただきました。子どもたちから、SDGsお化けを通じて提示された課題について、市政で取り組んでいくことや、これからの活動への期待を述べられました。

今後は、地域の課題を自分たちの問題として

捉え、持続可能なふるさと大垣にするために、サミットで話し合ったことをもとに活動をしていく「大垣市×SDGsお化けバスターズ」を実施していく予定です。

(学校教育課 鈴木 宏教)



「大垣市×SDGsお化けサミット」議論の様子



「大垣市×SDGsお化けサミット」記念撮影

ふるさと美術散歩⑨ 大垣市守屋多々志美術館を訪ねて



《ボトムマック河畔の福沢諭吉》平成3年(1991)(大垣市蔵)

幕末～明治時代の思想家である福沢諭吉(1835～1901)を描いた作品です。福沢諭吉は、大阪の適塾^{てきじゅく}に学び、安政5年(1858)、江戸で蘭学塾^{けいおうぎじゅく}(後の慶応義塾)を開きます。同7年(1860)、幕府の遣米使節として咸臨丸^{かんりんまる}で渡米、以後も2回欧米を視察しました。元治元年(1864)には幕臣となり、外国奉行通訳方を務めますが、明治維新後は官職を辞して、人間の独立自尊や実学の必要性を唱えました。著書には『西洋事情』『学問のすゝめ』などがあります。

守屋は、慶応3年(1867)にワシントンに渡っ

た諭吉が、ボトムマック河畔を散歩する様子を、横長の四曲屏風に、俯瞰^{ふかん}するような視点で描きました。右半分は主題であるボトムマック川と諭吉を描く一方、左半分は生い茂る木々のみを描いています。緑の濃淡さわやかなその木々は、安土桃山期の屏風などに描かれた金雲のようで、日本独特の絵巻物の伝統的な構図を意識しつつ、新しい解釈と技法によって描いた意欲作となっています。

この渡米時、同じく通訳として随行した人物に津田仙^{せん}がおり、その娘は後に渡米し、津田塾大学を設立する津田梅子です。守屋はこの作品の前年に、梅子を題材とした《アメリカ留学(津田梅子)》を発表しています。この2作品を連続で出品したことは、諭吉と梅子が、仙を介して密接な関係にあったことと無関係ではないのかもしれませんが。

企画展「心情と色」

会期: 令和7年3月15日(土)～5月11日(日)
守屋が描いた歴史画の主人公の心情を、どのような色で表現したかをテーマにした展示。

